



六甲カトリック教会

1

No601

教会報

新年を迎えて

新年おめでとうございます。

2022 年の幕が上りました。月日は否応なしに過ぎて行きます。新型コロナウイルスが出現してからはや、まる2年です。第5波がピークを過ぎて少し収まったかに見えたら、今度はオミクロン株とやらが現われてきました。今後どんな動きをするのか、全くわかりません。ワクチンの追加接種、治療薬の開発など喫緊の課題です。

人類はこんなにもろかったのでしょうか、それほどこのウィルスは前代未聞の怪物なのでしょうか。先端技術と高等な頭脳を持つ人間が、ミクロのウィルスに翻弄され、いまだ完全な解決策に至らないのです。神の領域に近づく能力と知恵を手にした人間の奢りが、神のご意向に沿わなかったのでしょうか。



聖家族(ミケランジェロ)

コロナに明け暮れている私たちの生活がだんだん変化してきました。街に出れば、人は必ずマスクをつけています。行く先々で消毒のアルコールを手には噴射し、体温を計られ、ときには名前と連絡先を書かせられます。集まって話すことは制限され、オンラインなどという画面越しの会議が開かれ、人と人との血のかよった交流が出来なくなっています。致し方ないことですが教会でも、葬儀ミサの人数が制限され、親しい人のお別れにもことばをかけることが出来ないという状況が続いています。コロナは変異株が次々現れ、命名にはギリシャ文字が尽きれば星座の名前を準備しているとか。コロナが絶滅しない限り、with corona の生活が当たり前になるのが怖いと思います。おしゃべりをする、歌う、握手、ハグ、手をつなぐ、肩を組んで歩く、などの人同士のふれあいが心置きなく出来るようになることを一日でも早くと、祈るばかりです。

今年はミサが平常に戻り聖歌が全員で歌えた、バザーや納涼の夕べ、バーベキュー大会、イグナチオ喫茶も再開された、と初夢を楽しみました。(編集部)

起きよ、光を放て。あなたを照らす光は昇り 主の栄光はあなたの上に輝く
イザヤ書 60 章 1 節～6 節

2021 年度第 3 回小教区評議会議事録（要約）

日時 2021 年 12 月 5 日 13:00～14:00 場所 第 1・第 2 会議室

出席者 アルフレド主任司祭、中村神父、西田議長、三垣・宗行両副議長 大上・増田両書記 井川地区会代表、財務部、典礼部、施設管理部、広報部、教会学校、婦人会、各コーディネータ

主任司祭の挨拶

収まりつつあったコロナは新しい変異株の出現もあり、慎重に様子を見ながら状況好転を願いつつ現状維持で進めていく。

協議事項

1) 2022 年度活動計画と予算申請

各部門のコーディネータから活動計画と予算提出の理由について説明と討議が行われ、概ね原案通り了承された。

2) 2022 年度年間行事予定表について

行事予定表原案を 12 月 12 日までに評議会メンバーに送付。各部門責任者はチェックして 2022 年 1 月 15 日までに提出して決定

報告事項

1) 宣教/養成部 黙想会（11 月 13 日（土）酒井司教様の指導。参加 45 人

2) 典礼部 祈りと音楽の集い 11 月 14 日（日）参加 63 人

次回は 2022 年 2 月 13 日 ジャン・フィリップ・メルカルトさんの演奏を予定

3) 事務室 クリスマスマサ整理券の発行状況 15:00 は満席 16:30 もほぼ満席 18:00 19:30 21:00 は 40～50 人の申し込み（12 月 5 日現在）

4) 地区会 教会大掃除 12 月 4 日（土）約 30 人の参加

5) 七五三祝福式 対象のこども約 10 人が参加

6) 新年のプレゼントの配布 12 月 31 日 23 時のミサから 1 月 1 日のすべての時間帯のミサ後に配布（瓦煎餅とカレンダー）する

7) 広報部 ①教会報は 12 月号で 600 号を記録した。部数は 500 部と増刷、配布もミサ案内係の場所に置くことになったのでコロナ時より数多く配布出来るようになった。
②イエズス会教会の WEB 会議はコロナで中止していたがそのまま終了した。

8) 信徒向けの財務報告会を適当な時機に行う。

次回（第 4 回小教区評議会）は 2022 年 2 月 6 日（日）13:00 より

1 月主日（1 月 1 日含む）ミサ時間割

1 日（土）	11 時	第 1 グループ	16 日（日）	10 時	第 2 グループ
	12 時半	第 2 グループ		11 時半	第 1 グループ
2 日（日）	10 時	第 2 グループ	23 日（日）	10 時	第 1 グループ
	11 時半	第 1 グループ		11 時半	第 2 グループ
9 日（日）	10 時	第 1 グループ	30 日（日）	10 時	第 2 グループ
	11 時半	第 2 グループ		11 時半	第 1 グループ

その他の時間（土曜日 18 時、日曜日 7 時半、1 日 8 時半）はどなたでも与れます。

尚、ミサの時間については教会の最新の情報にご注意下さい

心のともしび運動

教会に数あるポスター、パンフレットの中に「心のともしび」があります。二つ折りの4ページの冊子「暗いと不平を言うよりもすすんであかりをつけましょう」と題字の脇に添えられています。この冊子には比較的短い文章が数編紹介されていて、その筆者は神父、シスター、作家、エッセイストなど多岐にわたっています。こころの癒し、赦し、慈愛などのテーマが主です。あまり目立たない冊子なのですが、「心のともしび」とは一体どんなものなのでしょう。前任の六甲教会の主任司祭・松村信也神父が、現在「心のともしび運動」の代表役員をされているので、京都にお訪ねしてお話を聞いてきました。



宗教法人・カトリック「善き牧者の会」心のともしび運動本部は京都の河原町教会のそばにあります。1952年に河原町教会のハヤット神父が創立されました。電波（ラジオ、テレビ、ネット）での宣教活動の草分けでした。戦後の民間放送設立時期に合わせ、ラジオでの宣教を試みられたものと推測されます。現在毎日、日本全国各地のラジオ局から、兵庫県ならラジオ関西、MBSラジオなどから、朝の5時～6時の時間帯、約5分間の短い時間ですが、「お話」を流しています。「お話」の朗読はプロのナレーター、かつては女優の河内桃子さんがナレーターを努めていた時期があり、現在はやはり女優の坪井木の実さんが引き継いでいます。テレビは現在は撤退していますが、ネットではスマホなどでいつでもラジオが聴ける「ラジコ」を活用しています。朗読された「お話」の中の数編を冊子に掲載しています。それが教会に置いてある冊子です。地道ではありますが、また放送時間帯が早朝であることから、放送はみなさまのお耳に届きにくい面がありますが、ほっこりとした「お話」を聴く機会があれば是非聴いてみて下さい。「お話」の中に神のみことばが染み入っています。また、この運動では協力金を募っています。援助会員の方には、半年 6000 円、一年 10000 円の会費をいただいております。スポットの寄付金（特別献金）も歓迎です。



URL <https://www.facebook.com/tomoshibi.undou.ybu/>

https://twitter.com/tomoshibi_undou

（写真は心のともしび本部の看板と松村神父さま）

今月の聖人 聖トマス・アキナス

13世紀のイタリアの神学者・哲学者。スコラ学の代表的学者と言われています。ドミニコ会に入会し神学、哲学を学び、大著「神学大全」を著したことで知られています。1月28日が記念日です。カトリックの神学体系はアウグスティヌス(354～430)の学説を踏襲し絶対的な「神の国」を基準としたものでしたが、トマスはギリシャ哲学者のアリストテレスの思想を導入し、教会における聖書の解釈に新風を吹き込み、旧来の神学とアリストテレスの自然哲学を融合させました。哲学を信仰の領域に取り入れることには抵抗も大きく一時断罪されますが彼の死後撤回され、のちに列聖されます。この肖像画はいかにも怖い表情に描かれていますが、本来はどのようなキャラだったのでしょうか。（詫 洋一 記）



日本カトリック正義と平和全国大会に参加して

地球温暖化 井川伸子



第41回日本カトリック正義と平和全国大会が11月22日、23日の2日間にわたり大阪事務局が拠点となってオンライン形式で開催された。今年のテーマは「すべてのいのちを守ろう」。全国から約1000人が、30のテーマの中からそれぞれ自分の好きなテーマを選び、その分科会にZoom参加された。私は、分科会29の「地球を大切にするにはどうすればいいか」というテーマを選び、そのZoomミーティングに参加させていただいた。

始めに地球温暖化防止活動推進センターの研究所で働いている境野さんから温暖化による気候変動により生じた世界の災害状況、例えば、カナダ、アメリカ、地中海国々の広大な山火事、欧州の200人近くの死者を出した大洪水、グリーンランドの100億トン以上の氷の消失、シベリアのメタンガスの爆発的噴出による200箇所以上の巨大なツンドラ地帯の穴、など映像を通じて見せていただき、地球が破壊されていく恐ろしさの説明を受けた。このまま温暖化防止対策に真剣に取り組んでいかなければ、人間、生物、植物 いのちあるすべてのものの生存が脅かされる状況に追い込まれるという危機感を感じた。気候変動による8つのリスクは、1. 海面上昇 2. 洪水 3. 台風 4. 熱波 5. 食料不足 6. 水不足 7. 海の生態系損失 8. 陸の生態系損失だという。これらのリスクがある時点で一気に加速する可能性も指摘された。この地球温暖化の暴走をくい止めるにはどうすればいいか？先に開催されたCOP26では、各国で対策をとりながら、気温上昇幅を2050年までに1.5℃以下に抑えることを目標とした。解決策として温室効果ガスの92%を占める二酸化炭素を減らすには、排出量のシェアを多く占める産業界に削減の協力を求めることだそう。今までの石炭火力エネルギーから風力、太陽熱による自然エネルギーや、再生可能エネルギーに切り替え、脱炭素化を図るように移行する計画が進められている。私達個人のレベルではどのように協力したらいいか、将来気候危機によるリスクを受ける子どもや孫と話し合い、一人一人が気候危機を我が事のように感じ家族で危機意識を持つことだそう。3R (Reduce, Recycle, Reuse 削減、リサイクル、再利用)、プラスチック袋廃止、省エネ、ガソリンから電気自動車への移行など それぞれができることからやっていけば少しずつ地球はきれいになっていくことだろう。しかし、TOP10%の富裕国が、世界全体の温室効果ガスの50%を排出し、最も深刻な被害を受けているのは貧しい途上国の弱い立場の人たちだという現実を知って先進国は地球を守る責任を負わなければいけないと感じた。気候の問題は、不正義、不公正の問題としても社会的に意識されている。最後の分かち合いでは、これからは人間が地球を支配できるという人間中心的な考え方から自然と共生する社会、生活へ改革していかなければいけないということが話された。この神様がお創りになった美しい地球を守るために、子どもや孫の代、その先も温暖化のない地球に住むことができるように一人一人が真剣に考え、行動に移さなければいけないと思った。

難民問題 三垣恭子



11月22日～23日、大会は、今回、初めてzoomでオンライン開催されました。対面できないことの不安もありましたが、日程や費用に戸惑うことなく参加できるzoomには、発見も多くありました。主催者や実行委員の皆さまのご準備やご苦勞には、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

30の分科会が計画されている中、分科会8『日本に逃げてきてくれた難民たちと福音を生きる』では、まだまだ『難民』という言葉になじみの薄い日本において、福音にも人道主義にも反する入管制度をどのように改善していくことができるか？今後の取り組みについて、ひとりひとりができることを話し合いました。

とは言え、超初心者の私には、皆さまから教えていただき学ぶことばかりで、申し訳なく思う一方、おかげさまでとても有意義なものでした。

① See では、幼い頃より、あるいは、日本で生まれ、日本で育ち日本語を母国語として話すにもかかわらず、『難民認定されていない』大学生や子供たちの今までの経験、現状、思い、将来への不安などのお話には、かける言葉が見つかりません。また、迫害から逃れてきた方が語る母国での経験は、想像を絶するものでした。

② Listen ①の振り返り、黙想、祈り

- ③ **Share** 最初の少人数での分かち合いでは、遠く(東京教区?)の神父さまや実際に入管面会ボランティアを長く続けておられる方など、サポート側で長く活動されている方々とご一緒させていただきました。コロナで面会もままならない今、もどかしさを感じます。その後の少し大人数での分かち合いでは、さらに、諸外国との制度の比較などを伺いました。
- ④ **Act** ①～③を通じて、それぞれが、「ミッションステートメント(決意)」を作成し、分科会は、終了します。

もともと、新聞やテレビでしか知らなかった『難民』の現状を目の当たりにし、身近のものと感じたきっかけは、数年前の社会活動部の勉強会でした。今回、かつて(今も?)六甲教会にも入管面会ボランティアの活動があったとも聞きました。

また、今回の大会では、要約筆記や手話などの配慮もなされていました。だれも置き去りにしない世界に向けて、それぞれが自分のできることを見つけ実行できることを祈っています。多くのさまざまな方々との出会いに感謝を込めて。

大掃除しました

12月4日(土)教会大掃除が行われました。年に一度、この季節は特に落葉がひどく、毎日曜日に有志の方が落葉掻きをされていますが、それでもなお落葉は降りそそぎます。清掃、窓拭きなどに加えて落葉の掃除が大変でした。朝9時に集合、30人ほどの人が集まり、手分けして作業に当たりました。排水溝の中や、教会周辺の道路もき



駐車場の清掃

れいにして、大きなごみ袋がいくつも出来ました。11時すぎには完了、冷たいお茶でのどをうるおして解散しました。少し風がありましたが晴天に恵まれて、よい作業日和になりました。



外の道路もきれいに

趣味百景

絵を描く愉しみ

マリア 平林知恵子

1995年1月17日阪神大震災が起こり、神戸に住む私たちは本当に大変な驚きとその後の街の復興などに力を注ぎ、みんな大変な思いを致しました。幸い私どもの家はあまり被害もなく、住んでおります六甲アイランドに仮設住宅が建ちましたので、住民の皆様と一緒にボランティアを5年間させて頂きました。今までの価値観がすっかり変わり、何か自分で残せる事がないかと色々考えておりました時に、昔少しだけ描いておりました絵と出合いました。ほとんど同じところに「パウロに出会う旅」という、六甲教会の安芸神父様(まだお元気でした)が同行なさる巡礼旅行に誘われ出かけました。その後、イスラエル、ポーランド、イタリア、ベルギーなど2年ごとに巡礼旅行に出かけました。2000年前にイエス様が歩かれた道を今歩いているという感動を味わいながら、様々な教会を訪れミサに与りました。本当に恵まれた機会に出会い、巡礼から帰ると個展をさせて頂くという機会を頂き、拙い筆運びでの私の作品を暖かく皆様が観て下さり本当に励みになりました。心より感謝いたしております。もしまだ許されますなら、これからも多くの出会いを信じて旅と絵を続けることができますようにと願っております。喜びと感謝の内に。



新春クロスワードパズル 12月号に引きつづきお楽しみ下さい

グレーの枠の文字を整理して並べると一つのことばになります。さて何と出ましたか？
マス目の文字はすべてカタカナです。



ヨコのカギ

- 1 脳みそがある大事なところ
- 4 タイ国の大きな河の昔の呼称、
現在はチャオプラヤ河と言います
- 7 英語ではアイランドという
- 9 北陸や東北、北海道など寒冷地
- 13 大変な力持ちのこと
- 19 聖書福音記者のひとり
- 21 木から落ちることもある
- 23 お互い気の置けない間柄です
- 29 角が一本、頑丈そうな動物
- 31 中南米に位置しアメリカと国境を接する国
- 35 ちりめんじゃこともいう
- 38 昔はお正月にこれについて遊んだ。

タテのカギ

- 1 ナイル河畔のこの茂みに隠され、モーセは脱出した
- 2 目玉焼き？それともスクランブル？
- 4 鑑定眼が鋭いなあ
- 5 風がふと止まる、朝な夕なに
- 6 お魚に小麦粉をまぶしてソテーしたもの
- 9 都鳥ともいう、優雅な名前の鳥
- 14 触ったらかぶれるよ
- 18 新鮮なこれで一杯
- 21 沖縄の南西部の島々、〇〇諸島と言います
- 24 エジプトのピラミッドにはこれが残っていたらしい
- 27 クロールとも違う日本古来の泳法
- 34 パソコン使い過ぎ、肩の〇〇が治らない

(答えは最終ページ)

社会活動部より

ともしび会の養護施設の子どもたちへのケーキ作りは、教会の台所が使用再開になるまで活動は中止となりました。また、野宿者支援の毛布、防寒着のご寄付をお願いしましたところ、思いもよらずたくさんの品が集まりました。カトリック社会活動神戸センターより皆さんに感謝の念をお伝えしてくださいとのことでした。厚くお礼申し上げます。

六 甲 春 秋 中村健三神父のエッセー(第31回)

初めの一步:回顧と展望

教会の庭にある樹木は葉っぱが無くなってスケスケになり、ご近所の家が随分と見通せるようになった。これまでの数か月、毎朝のように落ち葉を掻き集めてくださった方々の労苦が、やっと終わりに近づいたのか。たとえ大の寒がりであっても、冬枯れも木枯らしも大歓迎したい。不思議なことに春の胎動は着々と始まり、桜の枝にはもうツボミがぎっしり挿められている。みずみずしい新緑が陽に輝く時も決して遠くない。私たちがあたふたしている間に年の瀬が迫り、新しい年・主イエスの年である 2022 年を迎えることになる。

往く年・過ぎた一年は新型コロナで大いに煩わされ、自粛ムードで行動が何かと制限されたのだろうか。加齢のお蔭をこうむって、身辺整理に励んでいるのか。過ぎ去った今年のスケジュール表を一月から独り静かに振り返りながら、あれこれ思案が尽きない。まさに閑人の特権なのか、東京や広島や下関に遠慮なくガラ空きのバスや電車が出かけ、多くの人々と楽しい出会いのひとときが持てた。またニューヨークのオペラ座で実際に上演され映画化された作品を見に、好んで国際松竹に出掛けて本場のオペラを原語で堪能し、また喜楽館の落語にも足を運んだ。日常生活では岡の上に聳える神戸大学のキャンパスをよく散歩し秋を満喫した。普段はなるべく歩く事を優先しているが、時にバスや電車を利用して人々の生態をじかに観察している。今年は鳴かず飛ばずたっぷり時間があつたので、曾野綾子や有吉佐和子の作品を読み直し、また奥村一郎の著作に初めて出会って共感するところが多く、日本における祈り・求道の道やキリスト教の在り方について問題意識を新たにした。さらには、幸いにも旧約聖書の原文であるヘブライ語の朗読テキストがすべ

て揃ったので、まず創世記と詩篇から始めて毎日テープに耳を傾けている。

近年はどうか、正月という年の改まりを厳粛に心新たに祝い寿ぐことが無くなってしまった、残念なことに。多くの店は正月の二日目から営業を始め、ゼニ勘定に忙しい。松の内という言葉さえも廃れてしまったようだ。来る年・新年への自分なりの抱負・希望を思いめぐらす時をもっと大切にしたいと思う。しかしブツチャケタ話、自分が 4 月から何処で何をしているのか知らないまま、新年の計・夢を思い描こうとしている。たしかに場所でも職務でもなく、まさに自分の新たな意気込みや決意が問われていると言え、たしかに正論ではあるが。主の年 2022 年の干支は寅年とか、あえて猪突を繰り返して猛進することを是とするのか。歳の重み・ままならなさ、自分の心に身体に日々に加わるように感じる朝に夕べに、私ならではの在り方・生き方を貫き、全うしたいものだ。夜半にトイレに起きることは多いが、夢を見ることはきわめて少なくなった。一富士二タカ 三ナスビと古来から言われているが、その曰く因縁は知らないが、今こそ大きなデッカイ初夢を見たいものだ。

ここに聖土曜日の典礼文を引用して、私の信仰や抱負の表明にかえよう。「主イエスキリストは始めと終わり、アルファとオメガ。時間も永遠も彼のもの、栄光と支配は彼のもの。栄光と支配は彼に、世々とこしえにアーメン」。

主の年 2022 年、一方ならずお世話になるにちがいない皆様、主なる神の祝福と護りと導きを、心から祈り求めつつ。

合掌



【2022 年 1 月行事予定表】

日	月	火	水	木	金	土
						1
						神の母聖マリア ミサ 8:30 11:00 12:30
2	3	4	5	6	7	8
主の公現 教会受付年始 休み（～3 日）					初金曜日ミサ 7:00 10:00 聖体顕示 ◎東灘南	クリスマスの 片付け
9	10	11	12	13	14	15
主の洗礼 ◎日曜班	教会受付 休み（成 人の日）					
16	17	18	19	20	21	22
年間第 2 主日	阪神淡路 大震災追 悼祈念ミ サ 10:00				◎灘北 1 北三田	
23	24	25	26	27	28	29
年間第 3 主日		聖パウロ の回心		定期清掃		
30	31					
年間第 4 主日 世界こども助 け合いの日 (献金)						

◎は掃除当番地区です。

編集後記

◎ 1 月は行く、2 月は逃げる、3 月は去る、とあっという間に季節は過ぎ去ります。ひと月はすぐ経ち、次号の中身を模索する毎日です。偶数ページを維持するための工夫、紙面の美学と品位、内容の充実に無い知恵を絞っています。本年もよろしくお願いいたします。

次回 2 月号の発行は 1 月 29 日（土）です。 原稿は毎月 15 日ごろまでに教会受付へ直接ご持参いただくか、FAX やメールでお願いいたします。皆様からの原稿をお待ちしています。あわせてご意見もお寄せ下さい。広報部 http://www.rokko-catholic.jp	六甲カトリック教会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21 電話 078-851-2846 FAX 078-851-9023 E メール renraku@rokko-catholic.jp 発行責任者 アルフレド・セゴビア 編集 広報部
---	--

クロスワードパズルの答え マルコ